普及現地情報

発信年月日：平成31年(2019年)3月22日
所　属　名：大津・南部農産普及課
番　　号：A18019
部門分類：120　(麦・豆・雑穀)
発信者名：山田、三木

小麦の飛躍的な収量向上を目指して

小麦の飛躍的な収量向上を目指して、「後期重点施肥技術」の実証を平成29年産から取り組んでいます。本技術はこれまでの技術とは異なり、小麦の初期生育を抑え、2～3月の穂肥施用により、無効分げつを減らしつつ、穂数を確保することで、収量を向上させる技術です。

平成29年産において、管内で1名の農家が試験的に実施し、播種時期が遅れて、ほ場条件が良くなかったにも関わらず、慣行栽培並みの収量が確保できました。この結果を受けて、この農家とともに平成30年産も引きつづき技術検証し、収量は慣行栽培を大きく上回りました。このことで、本技術により小麦の収量を大幅に向上させることが可能であると判断し、実施面積を拡大しています。その後、当課からの情報提供や農家間の情報交換により、平成31年産は管内で6名の農家が取り組まれ、本技術の普及に向けた現地の取り組みが着実に進んでいます。

平成31年産は本技術の基肥を0kg/10aとした実証区と緩効性肥料を使用した慣行区の比較調査を行っています。実証区における現在の生育状況は、慣行区と比べ、草丈が低く、茎数が大幅に少なくなっており、予想通りの経過となっています。

今後はこの結果を基に本技術の特性を捉え、地域に定着させることにより、小麦産地として管内全体の収量を向上させるよう、農業技術振興センターおよびJAと密接に連携を取りつつ、支援活動を強化します。

※播種日11月2日、播種量10kg/10a

3月12日実証区の様子

3月12日慣行区の様子